

11.4 国際交流

【評価項目 7-0-1】 国際交流（国内外における教育研究交流）

- （必須要素）国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
- （必須要素）国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性
- （選択要素）国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況
- （選択要素）外国人教員の受け入れ体制の整備状況、運用の適切性
- （選択要素）教育研究及びその成果の外部発信の状況とその適切性
- （選択要素）国際的な教育研究交流、学術交流のために必要なコミュニケーション手段修得のための配慮の適切性

<開設時に設定した目標>

1. 海外のビジネススクールへの認定（短期）留学制度の設定

（現状の説明）

1. 国際社会におけるビジネスパーソン

企業活動の世界規模での展開が進むに従い、ビジネスに携わる者に対してますます国際化した観点が要求されている。このようなグローバル社会におけるビジネスに対応していくためには、国際的なマネジメント能力を有するビジネスパーソンの役割が重要となる。国際社会で生起するビジネスの諸問題に対して、フェアな職業倫理と科学的な経営技術を持ち、それらに対処できる人間の育成が必要とされている。

2. 海外のビジネススクールとの提携について

本研究科の目指す「国際的水準で、世界に通用するビジネスパーソンの養成」は、現代企業が必要とする人材を輩出しようとするものである。本学は歴史的にも創立以来「英語の関学」といわれる語学教育の長年培われた伝統があり、日本と外国の相互理解の基礎として、コミュニケーション能力の育成に力が注がれている。この従来の特長を生かして、本研究科では、海外のビジネススクールと提携プログラムを設け、提携大学院での学習に十分な英語力等をもった学生が海外のビジネススクールで学ぶ機会を提供するものである。

提携プログラムを行う目的は次のとおり。

- (1) 日本におけるビジネス、欧米等におけるビジネスの双方を理解し、日本と外国の架け橋となって活躍できる、国際感覚を持ったビジネスの能力を養成する。
- (2) 欧米等のビジネスを研究し、世界で通用するビジネススキルを身につける。
- (3) ビジネスに関する英語力を強化し、国際ビジネスの現場で活躍できる能力を養成する。

3. 提携プログラムの内容

本大学と協定している大学のビジネススクールと提携し、本研究科において少なくともコア科目群、ベーシック科目群の履修を修了した第4クォーター以降に、3～6カ月で修了できるビジネスの留学プログラムを用意する。このプログラムでは、主専攻分野のレベルの高い科目を中心に学び、国際ビジネスに必要な分野の最先端の知識・技術が盛り込まれた科目を中心に、履修できるようにする。

また、学生本人が、教育課程上の学習の進行に沿った形でその内容を自主的に編成し、留学によってより高いビジネススキルを身につけさせることを目標とする。この短期留学で修得した単位数に対して、16単位を限度に修了単位に認定する。

4. 提携先大学一覧

提携の交渉を進めている大学は次のとおり。

- ◇ワシントン大学ビジネススクール（アメリカ）
- ◇ハワイ大学（アメリカ）
- ◇オーストラリアン グラデュエイトスクール オブ マネジメント
（シドニー大学、ニューサウスウェールズ大学が設立）（オーストラリア）
- ◇バーサ大学（フィンランド）
- ◇バーミンガム大学（イギリス）
- ◇エモリー大学（アメリカ）
- ◇デュポール大学（アメリカ）
- ◇ロードアイランド大学（アメリカ）
- ◇国立政治大学（台湾）
- ◇クィーンズ大学（カナダ）
- ◇モナッシュ大学（オーストラリア）
- ◇エラスマス大学（オランダ）

5. 大学院履修交流

本研究科と法政大学大学院経営学研究科は、大学院の学生の授業科目履修交流について協定を結ぶ。この履修交流は、関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科経営戦略専攻企業経営戦略コースと法政大学大学院経営学研究科経営学専攻夜間コースとの間に行うものである。各々の大学院学生が、相手方大学院授業科目の履修を希望する場合は、大学院指導教授の指導により、在籍研究科長または専攻主任へ所定の願書により履修を申請することとする。